

子育て応援シリーズ VOL3

おむつと共に安心をお届け

おむつ等宅配事業



7月号、9月号とお送りしてきた『子育て応援シリーズ』。「こども医療費無償化」「学校給食費無償化」に続いての第3弾は「おむつ等宅配事業」です。子育て支援の3本柱をしめくくる事業を紹介します。

大竹市では、子育て経験のある配達員が、乳幼児のいる家庭に、生後2カ月から満3歳の誕生月まで、2カ月に1回、おむつなどの子育て用品(3,300円相当)を無償で届け、その際に声かけや見守り、子育てサポート情報の提供をしています。

問い合わせ 福祉課 ☎ 59-2151



制度や申請などについては
こちらから。

担当者に聞く
教えてイノウエさん

10月から
選べる商品が増えます



福祉課 こども家庭支援係
井上 裕樹

「おむつ等宅配事業」は乳幼児のいる家庭を応援するために導入しました。

この事業は、子育て経験のある配達員が、注文された商品や子育て情報を届けたり、相談に乗ったりすることで、第三者の目での見守りができます。また、子育て世帯の経済的負担を軽減するだけでなく、社会的な孤立を感じやすい育児の精神的ストレスを軽減することができ、子どもが健やかに育つことを応援することができると考えています。ちょっとした困りごとや悩みを配達員に話すことで、気持ちが晴れたり、解決につながるような情報を教えてもらえたりすることがあるので、気軽に

話してもらえたらと思います。配達員を通じて、福祉課と情報を共有し、できる限りのサポートにつなげます。

3月に実施したアンケートでは、82%を超える方が配達員の対応について満足していると答えています。

「おむつ等宅配事業」は県内の他自治体でも導入されていますが、満3歳の誕生月まで利用できるのは大竹市だけです。

また、10月からはWebカタログを中心にするので、取扱商品を増やしたり、期間限定商品を出したり、人気度にに応じて商品を入れ替えたりするなど、利用者の声を素早く反映させられるよう努めていきますので、楽しみにお待ちください。

配達員に聞く

配達時に
大切にしていることは？

岡元 咲季さん

子育て経験を生かした
コミュニケーションを

「昨」年の11月ごろに配達員を始めました。現在は、1日に10件程度配達しています。配達する際は、子育て用品の受け渡しだけでなく、保

護者の方に「お子さんの様子はいかがですか？」などの声かけをしたり、お子さんと話したりしてコミュニケーションを取っています。2カ月に1回のお届けなので、再度同じ家庭に配達することもあり、自然と顔を覚えてもらえるため、困りごとや悩みを相談されることがあります。その際は、しっかり話を聞いた上で、解決策を限定するのではなく、「自分の場合はこうでした。結果こうなりました」のように一つの案としてお話しするようにしています。それと同時に相談先の紹介なども行っています。

「配達する際に心がけていること」は、話しかけやすいような雰囲気の中で保護者やお子さんとお話することです。大竹市ではありませんが、自分が子育てをしているころにも、市の方が子どもの様子を見に来てくれることがありました。しかし「何を質問したらいいの?」「どこまで相談したらいい?」などと考えてしまい、あまり相談ができませんでした。その経験を生かして、まずは話しかけやすい雰囲気作りをコミュニケーションを取って、相談しやすいような環境を作っていけたらと考えています。

この事業をどう思いますか？



大庭 優花さん
長女(2歳)、
長男(10カ月)

子どもが小さいころはおむつを使う回数がとても多いので、生活必需品の価格が高騰している中でのこの事業は本当に助かっています。おむつだけでなく、自分で買うと高いと感じるものもカタログで選べるようになっていて、のは、非常にありがたいですが、できれば商品のバリエーションを増やしてくれるとよりうれしいです。



若松 麻美さん
長女(中1)、長男(小5)、
次女(小4)、三女(3歳)

子どもを連れておむつなどのかさばるものを買って帰るのはとても大変なので、スマホでの注文で、定期的に自宅に届けてくれるのは、かなり助かります。自分ではなかなか買えないものや子どもが大きくなってからも使えるものがカタログに入っているの、トレイニングが進み、おむつが必要なくなっても注文したいものがあるのはとてもありがたいです。